産業別雇用者数～女性は昭和 60 年は「サービス業」が最多、平成 27 年は「医療,福祉」が最多

総務省「労働力調査」により、女性雇用者数を産業別にみると、昭和 60 年は「サービス業」が 464 万人（女性雇用者総数に占める割合 30.0%）と最も多く、次いで「製造業」435 万人（同 28.1%）、「卸売・小売業,飲食店」408 万人（同 26.4%）の順であった。
平成 27 年については、「医療,福祉」が 578 万人（同 23.4%）と最も多く、次いで、「卸売業,小売業」495 万人（同 20.0%）、「製造業」290 万人（同 11.7%）の順となっている。

産業分類として「医療,福祉」が新設された平成 14 年は 348 万人（同 16.1%）であった。当時は「卸売業,小売業」が最も多く 460 万人（同 21.3%）、次いで「製造業」359 万人（同 16.6%）で、「医療,福祉」は３番目であったが、翌年の平成 15 年に「製造業」を上回り、さらに平成 22 年に「卸売業,小売業」を上回り、以降「医療,福祉」が最多となっている。

男性は、昭和 60 年は「製造業」が 800 万人（男性雇用者総数に占める割合 28.9%）と最も多く、次いで、「卸売・小売業,飲食店」504 万人（同 18.2%）、「サービス業」476 万人（同 17.2%）の順であった。
平成 27 年については、「製造業」が 694 万人（同 21.9%）と最も多く、次いで「卸売業,小売業」468 万人（同 14.8%）、「建設業」342 万人（同 10.8%）の順となっている。

各産業における雇用者に占める女性の割合をみると、昭和 60 年は「サービス業」（49.4%）、「金融・保険業，不動産」（45.2%）、「卸売・小売業,飲食店」（44.7%）で４割を超えている。
平成 27 年は、「医療,福祉」（77.0%）、「宿泊業，飲食サービス業」（63.6%）、「生活関連サービス業，娯楽業」（59.4%）、「教育，学習支援業」（54.7%）、「金融業，保険業」（54.7%）、「卸売業，小売業」（51.4%）、「農林,林業」（41.5%）で４割を超えている。